

福祉灯油や水道料金(基本料金)免除など実施 根室市議会10月定例月議会 補正予算



10月28日、根室市議会10月定例月議会では、ふるさと応援寄付金の返礼品贈呈経費の増額や赤潮対策に関する市町村の負担分など総額約52億7275万円の補正予算が可決されました。

このうち原油価格・物価高騰の緊急対策として福祉灯油を昨年に引き続き実施します。市民税非課税世帯のうち75歳以上の高齢者世帯や障害者世帯、ひとり親世帯に對しては1万円分。生活保護世帯には5千円分の灯油券が支給されます。また今回は新たに市内で入所・入居する福祉施設に対し一人あたり5千円が支給されます。

なお、12月以降に市から該当しそうな方へ通知が送られますが、昨年度も福祉灯油の交付を受けた方で特に辞退の申し出をしない場合は自動的に灯油券が交付されるそうです。このほか今年度新たに該当する世帯については、所定の用紙で市に申請を行います。

水道料金の基本料金の免除は、家事用は10月から実施されていますが当初12月までの予定を来年の3月まで延長します。

さらにこれまで免除の対象になつていなかった用途別業務用・工業用・営農用・浴場用)についても同様に12月から来年3月まで水道基本料金が免除されます。なお下水道料金は免除の対象外です。

このほか国の事業で電力・ガス・食料品等の価格高騰による負担増に對して非課税世帯や家計急変世帯に5万円が給付されます。いま市はこの作業を急ピッチで進めています。該当する世帯は郵送された申請用紙を市に返信します。早ければ11月下旬頃から順次支給開始したいと考えています。

また家計の急変などにより今年新たに市民税均等割が非課税に相当すると認められる世帯についても、11月中旬頃から市役所窓口で申請受付がはじまります。詳しい内容については市ホームページ等での確認や市社会福祉課までお問い合わせ下さい。

共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2038号 2022年11月13日
日本共産党 根室市議団
根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023

10月定例月議会の日程が延長に

新型コロナウイルス感染拡大の影響から市議会10月定例月議会の期間が下記のように延長されました。



11月14日(月)10時～
一般会計の決算審査特別委員会の続き
11月21日(月)13時30分～本会議
令和3年度一般会計決算の採決など

旧統一教会の被害者救済や政治との癒着の究明を求める意見書などを採択

10月定例月議会の意見書は、『国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書』が全会一致で可決されました。また『道教委「これからの学校づくりに関する指針」を抜本的に見直し全ての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める意見書』と、『日本共産党根室市議団が提出した『世界平和統一家庭連合(旧統一教会)の霊感商法などによる被害者を救済するとともに、政治との癒着を究明することを求める意見書』が賛成多数で可決されました。

なお、この他に日本共産党市議団が提出した『急激な物価高騰からくらしと営業を守る緊急の経済対策を求める意見書』、『高齢者の医療費窓口負担の2割化を中止し、「原則1割」に戻すことを求める意見書』、『政府の「難民」認定を国際水準まで高め、支援強化を求める意見書』、『防衛費を対GDP2%以上に大幅増額することに反対する意見書』については、残念ながら反対多数のため議会運営委員会で取り下げになりました。

ひとりでも多くの命が助かるため、早く津波から逃げる 花咲港地区で「地震・津波防災訓練」が行われました

11月5日、花咲港地区で「根室市地震・津波防災訓練」が実施されました。内閣府・北海道・根室市の主催で根室警察署など各関係機関も関わり、花咲港地区の自主防災組織など地域住民の方々が約50名ほど参加されました。

花咲港では平成24年から避難訓練を続けているのですが、今年11月5日の「津波防災の日」「世界津波の日」に合わせて津波避難訓練が行われました。ちなみに筆者は部外者ですがこっそりと見学させていただきました。

9時30分、発災合図のサイレンが鳴ると住民の方々は各自その場で身の安全を守る行動をとります。その後、住民の皆さんは避難所の花咲港小学校まで歩いて向かいます。参加された方は「下の第二町会からだけ、ここまで9分着いたよ」「あら、あんた足速いね」と楽しそうに感想を話し合っていました。

会場の花咲港小学校では、避難所運営訓練として避難者の受付から、ダンボールベッドの組み立てが行われました。ダンボールベッドは組み立てが難しいタイプだったようで、「これどうなってるんだ?」と頭をひねりながら、協力して作業していました。

興味深かったのは民間企業が開発したスマホアプリで津波の避難状況をリアルタイムで把握して、データ解析をするシステムの実証実験が同時に行われた点です。アプリ登録した住民の位置情報が、花咲港小学校の体育館に設置された大型モニターに刻々と表示されます。それにより人々が今どのルートを通って避難しているのか。この道路が渋滞しているのか。また避難所以外に人が集積しているような地点があるのか。その場から一目で状況を確認することが出来ます。

システム開発した企業の方によると、避難訓練として実験を行った自治体は根室市が初めてとのこと。今回の実験でアプリ登録に参加した住民はあまり多くなかったようですが、今後さらに開発が進めば、効果的なツールとなるのが期待されます。

このほか大学教授の方々が防災に関する講演をされました。その中で札幌市職員の早川直喜氏は、防災に「関係した地域づくりや地区防災計画の策定の重要性について、自身の経験談を交えながらお話されていました。

最後に炊き出し訓練として、地域の方々が朝早くから準備した秋味汁を大変おいしく頂きました。

あらためて自分たちの住んでいる地域では何をしておくべきを考えると、貴重な体験になりました。ありがとうございました。うございました。

